

就労継続支援A型事業所における地域連携活動実施状況報告書

事業所名	株式会社SANCYO TANOSHIKA CREATIVE諏訪野町	事業所番号	4012702355
住所	福岡県久留米市諏訪野町1-22 ワカナセントラルプレイス5F	管理者名	小村千尋
電話番号	0942-80-6216	対象年度	令和7年度

地域連携活動の概要

<p><活動内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 活動場所: ベジサーク(施設外就労先) 実施日程: 令和7年7月～ 実施した生産活動・施設外就労の概要 チラシ、ポスター、タペストリーの作成業務 利用者数: 2～3名にて 	<p><活動の様子></p>   
<p><目的></p> <p>一般就労でも通用するデザイン制作やバックオフィス実務を通じて、利用者の専門スキルと職業的自立心を養うこと、単なる作業代行に留まらず、クライアントである企業様の「会社案内」や「タペストリー」といった、対外的に重要な役割を持つ制作物を担当することで、責任感とプロ意識の醸成を図ることを目的としています。</p> <p>また、先方の意図を正確に汲み取るヒアリング能力や、修正依頼に対する柔軟な対応力を磨くことにより、一般就労において不可欠な「クライアントワークの基礎」を実践的に習得し、福祉の枠を超えた質の高いサービス提供を目指しています。</p>	
<p><成果></p> <p>今回の連携を通じて、当事業所の制作物が一般市場においても信頼される品質であることを実感することができ、先方のイベント準備における負担軽減や業務効率化に貢献することができました。特に、細やかな修正への柔軟な対応や、ニーズを先取りした提案が先方の安心感に繋がり、障がいの有無に関わらず信頼関係を構築できたことは大きな成果です。</p> <p>この実績により、制作受注から、今後はデザイン面や広報面を含めた包括的なサポートへと業務範囲を拡大する足掛かりが得られました。企業様側からも継続的な連携を希望していただいている為、今後も利用者にとってより実践的な業務へ挑戦できる、作業機会の創出を実現しています。</p>	

連携先の企業等の意見または評価

<p>連携した結果に対する意見または評価</p> <p>弊社のバックオフィス業務およびイベント関連制作物の作成をご対応いただきました。会社案内やタペストリーなど、対外的な場面で使用する重要なアイテムを丁寧に仕上げていただいております。細かな修正にも柔軟に対応いただき、意図を汲み取ったご提案をいただける点に安心感があります。イベント時の準備負担軽減や社内業務の効率化につながっており、大変助かっております。障がいのある方々が関わって制作されているとは思えないほど、品質面でも十分に信頼できる仕上がりであり、今後も継続的にお願いしたいと考えております。</p> <p>今後の連携強化に向けた課題</p> <p>年間スケジュールや繁忙期を見据えた計画的な発注体制を構築できれば、より安定した連携につながると感じております。また、弊社側からの情報共有(イベント日程・販促計画など)を早めに行うことで、より質の高い提案や制作準備が可能になると考えております。今後は制作業務に加え、デザイン面や広報面でのサポートも含め、連携の幅を広げていければ幸いです。</p>			
連携先企業名	株式会社ベジサーク	担当者名	尾形 朝矢

就労継続支援A型事業所における利用者の知識・能力向上に係る実施状況報告書

事業所名	株式会社SANCYO TANOSHIKA CREATIVE諏訪野町	事業所番号	4012702355
住所	福岡県久留米市諏訪野町1-22 ワカナセントラルプレイス5F	管理者名	小村千尋
電話番号	0942-80-6216	対象年度	令和7年度

利用者の知識・能力向上に係る実施概要

<p><活動内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日程 令和7年 2月18日(月)10時~11時 ・場所 TANOSHIKA CREATIVE諏訪野町 ・講義「合理的配慮とは？」 ・講義者 合同会社 Dweild 代表 宮本孝之 氏 ・参加者 職員2名 利用者4名 <p><目的></p> <p>この研修は、働く上で欠かせない「自分に合った働き方(合理的配慮)」について、利用者様と職員と一緒に正しく理解することを目的に行いました。単に「これやってほしい」とお願いするだけでなく、就職先の方としっかり話し合い、お互いが気持ちよく働ける環境をどう作っていくかという「対話のコツ」を学ぶことが大きな狙いです。</p> <p>また、自分自身の得意・不得意を改めて見つめ直し、職員と目標をひとつにすることで、自信を持って一般就労を目指すようなきっかけ作りを目指して実施しました。</p> <p><成果></p> <p>研修を通じて、利用者様一人ひとりが「自分に必要な工夫」を前向きに考えられるようになり、職員の間でも「これからどう進めていくか」という共通のイメージを持つことができました。</p> <p>お互いに意見を出し合いながらコミュニケーションを取ることで、自分の困りごとを伝えるだけでなく、相手と歩み寄る大切さを学ぶ貴重な機会となりました。</p> <p>これにより、事業所全体でサポートできる幅が広がり、利用者様がそれぞれの可能性を活かして、より自分らしい働き方を考えられる切っ掛けとなりました。</p>	<p><活動の様子></p> 
---	--

連携先の企業や事業所等の意見または評価

<p>今回の研修は『合理的配慮』をキーワードとして参加いただいた利用者様、職員の皆様と今後の支援の方向性の整理や自己理解の促進、一般就労に向けての認識のすり合わせにつながることを目的として実施させていただきました。合理的配慮とは何なのか、という言葉の意味だけではなく何のために必要なのかということに参加者全員でコミュニケーションを取りながら共に考える時間となったと感じています。配慮事項を検討していく中で起こりやすいことはただ自身の困りごとを伝える、要望を伝えるにやりやすいという現実ではなく『対話的環境調整』という形で対話を通じてお互いにすり合わせを進めていくことの必要性を考え、日々の活動や支援の中で利用者様も職員も就労後を見据えた同じ視点を持つことができるキッカケとしていただければと思います。皆様が主体的に参加いただけたことで今後の事業所としての支援の幅や選択肢、可能性が広がっていくことを期待しています。</p>	
連携先企業(担当者)	合同会社Dweild(宮本 孝之)

利用者からの意見・評価

<p>合理的配慮という言葉の意味を改めて理解できました。ただ助けてもらうのを待つのではなく、自分から歩み寄って相談することの大切さに気づけました。これからの日々の作業の中でも、自分の特性をどう伝えて、どう工夫すればスムーズに進むかを意識して取り組んでいきたいです。自分の働き方や可能性を考えられる大切な研修でした。</p>
